

編集後記

4月はリフレッシュの季節、民博は須藤健一新館長を迎えた。巻頭では、創設35年を迎えた民博の若芽に順調に育ってほしいという熱い思いを語っていただいた。常設展示場も、アフリカ展示と西アジア展示をリフレッシュした。次号以降の特集で見どころなどを紹介する。

お気づきのことと思うが、本誌も今号からデザインなどをリフレッシュした。それにともない、発行が遅れたことを、深くお詫びしたい。

考えてみれば、日本人は年度もリフレッシュする4月に特別な思い入れがある。時計の針がもう一度戻る感覚がある。でも実際には、時間は容赦なく進み、ものごとは変化していく。私も馬齢を重ねることになるのだが、だからこそ、こうした円環状の時間感覚は、人びとになにかしらの安心と希望をもたらすのだろう。時間を直線の矢と見るか円環と見るか、文化における時間観念は古くからのテーマだ。円環の源は、地球の回転ひいては宇宙の回転にあるわけで、その回転エネルギーを、人びとは心理面で受け取っていることになるのかもしれない。(久保正敏)

次号の予告

特集 常設展示 リニューアル (西アジア)

月刊みんぱく
2009年4月号

第33巻第4号通巻第379号 2009年4月10日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫
編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎 庄司博史
中牧弘允 三尾稔 山中由里子
協力 財団法人千里文化財団
制作 京都通信社
印刷 市蔵図書

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

みんぱくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

- 予定時間 14時30分から15時30分(予定)。
ただし、4月26日(日)は15時30分から16時30分(予定)。
- 特別展示場または常設展示場観覧料が必要です。
*都合により、予定を変更することもあります。

国立民族学博物館(みんぱく)の研究者が、来館された皆様の前に登場し、「研究の内容」、「調査地域・国の最新情報」、「展示資料にまつわる情報」についてお話します。質問もどんどんお寄せください。展示場でお待ちしています。

月の開催

4月5日(日)

話者: 須藤健一
(国立民族学博物館長)

話題: オセアニアの文化復興

場所: オセアニア展示



ミクロネシアのサタワル島の帆走カヌー

4月12日(日)

話者: 八杉佳穂 (民族文化研究部教授)

話題: 「千家十職×みんぱく」(特別展「千家十職×みんぱく」関連)

場所: 特別展「千家十職×みんぱく」会場

4月19日(日)

話者: 小林繁樹 (文化資源研究センター教授)

話題: 「手仕事を動詞で考える」(特別展「千家十職×みんぱく」関連)

場所: 特別展「千家十職×みんぱく」会場 2階

4月26日(日)★この日のみ15時30分から16時30分(予定)

話者: 長野泰彦 (民族文化研究部教授)

話題: 「ボン教に見るチベット宗教の基層」
(企画展「チベット ポン教の神がみ」関連)

場所: 企画展「チベット ポン教の神がみ」会場

4月29日(水・祝)

話者: 横山廣子 (民族社会研究部准教授)

話題: 「ナシ族画家のふるさと」(企画展「ナシ族画家が描く生活世界」関連)

場所: 企画展「ナシ族画家が描く生活世界」会場

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

